

早・晩期栽培における水稲品種の生態的特性に関する研究

第2報 水稲の草型と早期栽培との関係

岡田正憲*・丸野俊徳**・前田浩敬***

(九州農試*・鹿児島農試熊毛分場**・東北農試***)

草丈，莖数，粒着密度に関して遺伝因子の明らかな8つの創成草型（ABC・AB・AC・BC・A・B・C・abc）を供試材料とし，1953年東北農業試験場（大曲）においては普通栽培，鹿児島県農業試験場熊毛分場（種子島）においては早期栽培を行い，収量その他の諸形質について比較検討し，草型の生態的な特性を明らかにしようとした。東北においては8種の草型中，

BC型がいつれの栽培条件下でも常に多収を示し，同地方の最適草型であるが種子島の早期栽培においても同様であり，その他の草型においても両地における各草型間の生産力の傾向は極めて類似していることが認められた。

（本報は九州農業試験場彙報に報告の予定）